

【別紙様式 I】 令和4年度 学校評価報告書

学校名 厚木市立厚木小学校

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
	2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
	3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 小林 正徳

学校教育目標	学校経営の方針
豊かな人間性を持ち、たくましく生きる児童の育成 かんがえる子【創造】 創造的に発想できる子 やさしい子【共生】 まわりの人を大切にできる子 がんばる子【挑戦】 失敗をおそれずチャレンジする子	○日本国憲法、教育基本法等関係諸法令並びに神奈川県教育ビジョン、厚木市の教育大綱に基づいた学校経営を展開する。
	○共生社会の実現に向け、自他の命を尊重し、互いの良さを認め合う心情を育むため「インクルーシブ教育」を推進する。
	○E S D（持続可能な開発のための教育）の視点で教育課程を編成及び実施し、自ら考えて行動する力の育成に努める。
	○コミュニティスクールとして、地域の「思い」や保護者の「願い」を大切に「地域と共にある学校づくり」をめざした学校経営に努める。



今年度の重点目標

確かな学力 主体的・対話的で深い学びで確かな学力を身につけ、学力の向上を目指すとともに、創造的な発想を生かし、様々な課題に柔軟に対応できる能力を育む。 豊かな心 自己決定を積み重ねることで、自己肯定感を高めるとともに、周りの人とのより良い関係を築ける豊かな心を育む。 安全・地域ふれあい 自他の命を守るための安全意識の向上と実践力を身につけさせるとともに、家庭や地域社会の一員としての主体的な態度や協働の意欲を育む。 健やかな体 自分の健康や体力に興味を持ち、健康の増進、病気やけがの予防、体力の向上を目指して、努力する姿勢を育む。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
「確かな学力」をつけるための分かりやすい楽しい授業の実践	1・2	児童が必要感や達成感を得られるような教材づくりや単元計画の工夫	校内研究では「表現力豊かな児童の育成」を目指し、国語科を中心に研究を行った。教材や単元計画を工夫することにより、児童が主体的に取り組む姿が見られた。一方で、児童が振り返りなどによる学びの自覚化については課題が残った。	今後も、校内研究や学力向上の取組の中で、見通しと振り返りを意識した授業づくりを行い、児童が主体的に学ぶ機会の充実を図っていくことで達成感を得られるようにしていく。
GIGA端末の効果的な活用方法の研究	1・3	chromebookの活用の推進（クラスルーム・ミライシードなどの授業での活用の推進）	chromebookの活用は児童のICTの活用能力や学習意欲の向上につながっている。一方で、家庭でのインターネットの使用時間が多いこともアンケートの結果から伺え、情報モラルの育成も急務と言える。また、今後のchromebookの持ち帰りによる家庭での活用を含め、課題が残る。	校内や家庭でのchromebookの活用について今後も具体的な場面を想定し、情報教育担当を中心に校内体制を整えていく。並行して、情報モラル教育なども情報教育の年間計画上で位置づけ、外部講師の招聘も進めたい。
児童の主体性を生かした約束やきまりの見直し	1・2・3	厚木小のルールと学校生活について児童・保護者への周知全職員での共通理解	新しい生活様式に合った「厚木小の生活」の配付を行った。内容等の保護者への周知はまだ不十分ではあるが、児童の理解は進んでいる。	「みんなの約束」や職員共通理解事項の見直しと精選を図る。さらに、「令和5年度版厚木小の学校生活」を作成し、全家庭に配付し、周知をする。

児童が安心して学校生活を送るための支援の充実	1・2・3	ケース会議の開催や組織としての対応	児童理解週間を設け、児童アンケートなどから実態を把握し、指導にいかした。担任・児童指導・支援担当・元気アップアシスタント・養護教諭・スクールカウンセラーが連絡を密にし体制づくりを行ってきた。月5の会やケース会による情報共有と方針を決定したり、関係団体との連携をとったりすることで早期に問題への対応を行うことができた。また、学生ボランティアなどの活用も進んできた一方で、年々支援を要する児童が増加してきているという実態もあり、人員確保、校内支援体制の維持に課題が残る。	アンケートからも悩みを抱えている児童への対応が重要と考えている。学年での情報共有にとどまらず、教育相談コーディネーターや児童指導担当を中心に、組織として情報を共有し、複数体制で課題に対応していく。特に、支援が必要な児童については家庭や関係機関との連携を強化していく。また、教育相談コーディネーターを中心に適切な支援体制の構築を進め、組織的な対応の充実を図っていく。
インクルーシブ教育の推進	2・3	児童の人権週間の取組	各委員会で連携しながら人権週間の取組を行った。また、今年度はピンクシャツデーを行い、児童が人権について意識を向けるきっかけを作ることができた。	今後も、人権週間など児童とともに取組をさらに進めていきたい。また、道徳やSDGsとの関連も視野に入れながら、校内での年間計画やESDカレンダーに位置付け、実践を進めて行く。
「自分の命は自分で守る」児童の防犯・防災・安全教育の充実	1・3	交通安全訓練、避難訓練・水害時避難訓練・防災の日の設定	交通安全訓練には、警察や保護者の方にも参加いただき地域連携の視点でも実施することができた。また、今年度から水害時避難訓練も開始した。これらの訓練に加え、月一度の防災の日には、交通安全や防犯訓練など様々な場面について児童と考える機会を設けることで、児童の安全に対する意識を高めることができた。	内容を精選しながら、今後も継続的な取組を行い、児童の安全面に対する意識をより高めていきたい。また、交通安全訓練のように、今後も保護者を巻き込んだ取組ができるようにPTAとの連携も図っていく。
感染症対策への取組	2・3	感染症対策の計画・実施	新しい生活習慣に合わせた日課や校内のマニュアルを作成し、感染症の対策を行った。教職員はもちろん、児童も感染症対策に対する意識を高めた。	家庭と連携を取りながら、引き続き状況に合わせた対策を行うとともに、withコロナ時代を見据えた教育活動を推進していく。
保護者・地域への情報の発信	3	学校だよりや学校HPの発信	学校だよりの発行や学校HPの更新等を通して、随時学校の情報を発信することができ、家庭や地域の学校に対する関心の高まりが見られた。一方で、学校運営協議会やサポート隊、PTAなどの活動が周知できていない部分もある。	学校だよりや学校HPのさらなる充実、連絡メールの迅速な発信を図っていく。また、学校運営協議会やサポート隊及びPTAの活動についても、積極的に発信していく。
開校150周年行事への主体的な取組の推進	1・2・3	150周年記念式典の実施	150周年式典を通して、地域による実行委員会、PTA、学校が連携して、式典や関連する事業を実施することができた。また、児童も6年生や児童会を中心に、地域の中にある学校として役割を果たすことができた。	次年度以降も150周年式典を通して作られた、地域とのつながりを生かし、教育活動へとつなげていく。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

児童・保護者の「学校づくりアンケート」の結果では、本校の教育活動が概ね高く評価されているので、今後もさらなる充実を図って欲しい。特に、地域や社会教育の活用による本校ならではの学習を進めていくことが望まれる。今後も、児童が安心・安全に学校生活を送るために、学校・家庭・地域による連携を進めていく必要がある。

今年度の学校経営のまとめ・次年度への改善の方針

保護者や地域の方々からの多くのご支援をいただきながら学校教育目標の達成に向けて教育活動を実践してきたが、結果として概ね達成できたものと考えている。情勢に応じて、withコロナ時代を見据え、今後もゆとりのある教育計画の作成に努めていくことで、児童にとって居心地の良い学校づくりを進めていきたい。